

荒山林業の理念と概要

天然林経営に哲学を込めて

この地に自然に芽生えたもの—在るもの—を尊重し、その“天与の恵み”によって生かされ、そして森林の持つ諸機能がより潤沢に発揮されるような施業・経営を目指しています。

経営面積約270㌥、その3分の1を杉・唐松・赤松・桧の人工林、3分の2を落葉広葉樹を主体とした天然生林が占めています。標高およそ800～1300㍍。日本海側の豪雪地帯（ブナ帯）と内陸の少雨地帯の間の中間帯（コナラ、クリ帯）に属し、豊かな植生、多様なパターンの森林が存在しています。

人工、天然生林とも基本的に伐期を設けず非皆伐択伐施業による単木的管理を目標としています。天然生林施業を主体とし、人工林は天然で賄えない分を補足するものとし、天然林は保育に手がかけられないのでその分は人工林の集約施業に向けています。

人工林も陽樹で広葉樹と相性のよい唐松・赤松林はもちろん、杉・桧林もできるだけ針広混交林化を進めています。

豊富な広葉樹と集約施業による木工・建築用良質材、薪・茸原木・山菜（天然）茸（天然、原木栽培）、山桜、栃、山栗、キハダといった木の花の蜂蜜などの林産物生産はもとより、多様で魅力的な森林空間を利用したイベントなどを通じて人びととともに、森林・林業に対する理解・認識を深め合いながら、よりよい森林と林業経営を目指しています。

荒山林業の森1万分の1 地形図

